７．日本人一般集団における非空腹時採血の中性脂肪と脳･心血管疾患死亡との関連：NIPPON DATA90

研究協力者　平田　あや（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学　助教）
研究分担者　岡村　智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学　教授）
研究協力者　杉山　大典（慶應義塾大学看護医療学部　教授）
研究協力者　平田　匠　（北海道大学大学院医学研究院社会医学分野公衆衛生学教室　准教授）
研究分担者　大久保孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座　教授）
研究分担者　奥田奈賀子（人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科　教授）
研究分担者　喜多　義邦（敦賀市立看護大学看護学部看護学科　教授）
研究分担者　早川　岳人（立命館大学衣笠総合研究機構地域健康社会学研究センター　教授）
研究分担者　門田　文　（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　准教授）
研究代表者　三浦　克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　教授）
研究分担者　岡山　明　（合同会社生活習慣病予防研究センター　代表）
顧　　問　上島　弘嗣（滋賀医科大学アジア疫学研究センター　特任教授）

【背景】

中性脂肪（TG）の上昇は脳・心血管疾患（CVD）の残余リスクとして考えられており管理の必要性が議論されている。非空腹時 TG は空腹時と比較して CVD イベントリスクと強く関連するという報告もあるが明確な管理目標値は示されていない。過去の研究では CVD の発症をアウトカムとした研究が多く死亡のみをアウトカムとした研究は少ない。本研究では日本人一般集団における非空腹時 TG と CVD 死亡リスクとの関連を検討した。

【方法】

1990 年に実施された循環器疾患基礎調査の追跡研究である NIPPON DATA90 の参加者 8,383 名のうち心血管疾患の既往有や脂質異常症治療中を除外した 6,831 名（男性 2,853 名、女性 3,978 名）を解析対象とした。対象者を TG <60, 60-89, 90-119, 120-149, 150-179, 180-209, ≥210mg/dL により 7 群に分類し Cox 比例ハザードモデルを用いて各群の CVD 死亡ハザード比（HR）を算出した。調整変数は性別、年齢、BMI、non HDL-C、HDL-C、高血圧、糖尿病、喫煙習慣、飲酒習慣とした。

【結果】

平均追跡期間は 18.0 年、CVD 死亡は 433 名（男性 214 名、女性 219 名）であった。TG150-179 を参照群とした多変量調整 HR は TG≥210 で 1.57 (1.01-2.41)と有意に高かった。TG<120 の各群においても HR が有意に高く TG<60: 2.02 (1.23-3.32), 60-89 : 1.62 (1.06-2.47), 90-119: 1.59 (1.05-2.41)であった。男女別の解析では、男性で同様の傾向を認めた。

【結論】

高値 TG に対する管理の重要性が改めて示唆された。一方で非空腹時 TG と CVD 死亡リスクには U-shape の関連を認めた。TG が低い集団における死亡率リスクの上昇については今後、因果の逆転の検証を含めてその背景に関する慎重な検討が必要と考えられた。

第 51 回日本動脈硬化学会総会・学術集会　（2019.7.11 京都）